

事 項	りんご「ふじ」におけるつる割れの多発要因と発生軽減対策（追加） ～つる割れ発生の多少は降水量から予測できる（改訂）～		
ね ら い	平成19年度指導参考資料において、りんご「ふじ」のつる割れと降水量の関連性が最も高い期間は満開後81日～130日（平年：8月3日～9月21日）である」とした。今回、平成19年～21年の追加データを含めて再検討した結果、より高い精度でその年のつる割れの発生動向を予測できる期間が明らかとなったので改訂し、参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 りんご「ふじ」のつる割れと降水量の関連性が最も高い期間は満開後71日～120日（平年：7月24日～9月11日）であり、この期間の総降水量が多いほど、収穫時のつる割れの発生が多い。</p> <p>2 発生軽減対策（平成16年指導参考資料から転記）</p> <p>(1) 樹勢を必要以上強くしない。</p> <p>(2) 多発年には収穫作業を遅らせない。</p> <p>(3) 例年発生が多いところでは、袋掛けを実施する。</p> <p>(4) 排水不良園では、暗きょ設置など排水対策を講ずる。</p>		
期待される効果	りんご「ふじ」のつる割れの多発発生が懸念される場合は、収穫を必要以上に遅らせないなど、良品生産上の注意を喚起することが出来る。		
普及上の注意事項	つる割れは排水不良園や樹勢の強い樹で発生が多い傾向があるので、発生の多少は降水量だけでなく、これらの要因も考慮して判断する。		
担 当 部 署 (担当者名)	りんご研究所 栽培部 (葛西 智)	対 象 地 域	県下全域
発表文献等	平成16・19年度 指導奨励事項・指導参考資料等 平成11～21年度 試験研究成績概要集（りんご研究所）		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 各期間の総降水量と収穫時（満開後175日）のつる割れ発生率の相関係数

（平成11～21年 青森りんご研）

満開後 日 数	～70	～80	～90	～100	～110	～120	～130	～140	～150	～160	～170
61～	0.317	0.458	0.407	0.563	0.842**	0.907**	0.816**	0.798**	0.582	0.670	0.556
71～		0.475	0.383	0.527	0.835**	0.910**	0.850**	0.770**	0.407	0.567	0.502
81～			-0.015	0.248	0.765**	0.838**	0.697*	0.428	0.111	0.293	0.235
91～				0.261	0.668*	0.771**	0.636*	0.361	0.095	0.229	0.179
101～					0.695*	0.726**	0.394	0.193	-0.048	0.095	0.033

（注） 相関分析により、** は1%、* は5%水準で有意性があることを示す。

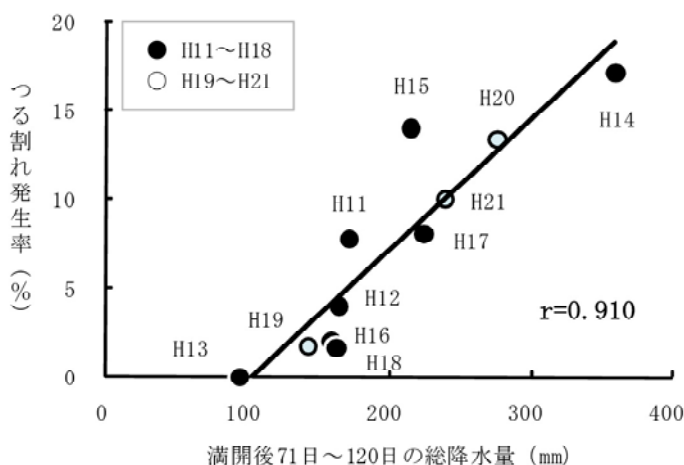


図 1 満開後71日～120日の総降水量とつる割れ発生率（満開後175日）の関係
（平成11～21年 青森りんご研）

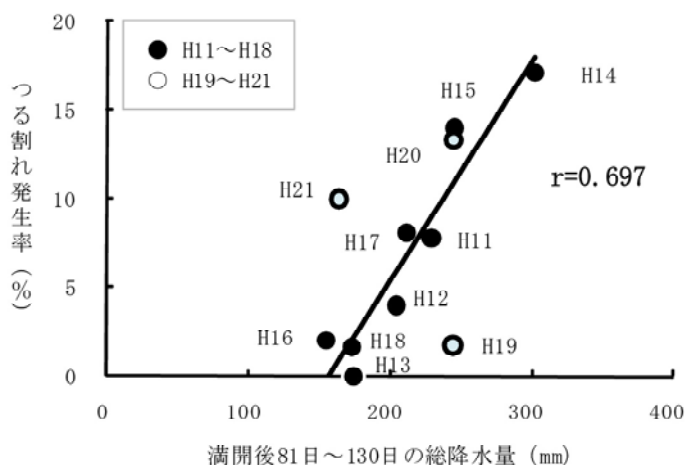


図 2 満開後81日～130日の総降水量とつる割れ発生率（満開後175日）の関係
（平成11～21年 青森りんご研）

（注）平成19年度指導参考資料に基づく関係図